第９回日本ジオパーク全国大会　アポイ岳（北海道様似町）大会
安全管理分科会資料（2018.10.6-7）

日本ジオパークネットワーク

ツアー中の事故・ヒヤリハット事例集

作成　JGN ガイドワーキンググループ・とかち鹿追ジオパーク
文責　とかち鹿追ジオパーク（担当：大西）

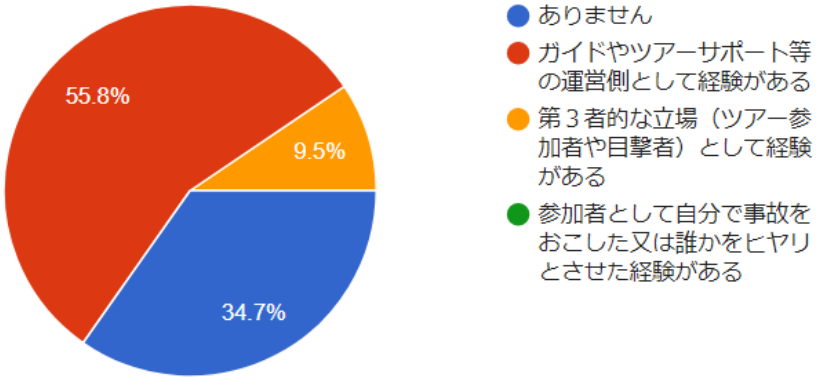
この事例集は、アポイ岳大会に先立って全国のジオパークに対し事故・ヒヤリハット事例に関するアンケートの協力を求め、その事例をまとめたものである。回答いただいた資料に関して、できる限り原文のまま記載しているが、地名等、地域を特定できる部分については改変を行った。アンケートにご協力いただいた皆様にはこの場を借りて感謝申し上げる。

目　次

概　要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
事例集（アンケート結果）　・・・・・・・・３
アンケート内容　　・・・・・・・・・・・・46

概要　（アンケート回答数　95 件）

１．あなたは、ジオツアー（室内の案内を含む）催行中に事故やヒヤリハットを経験したことがありますか？（９５件の回答）



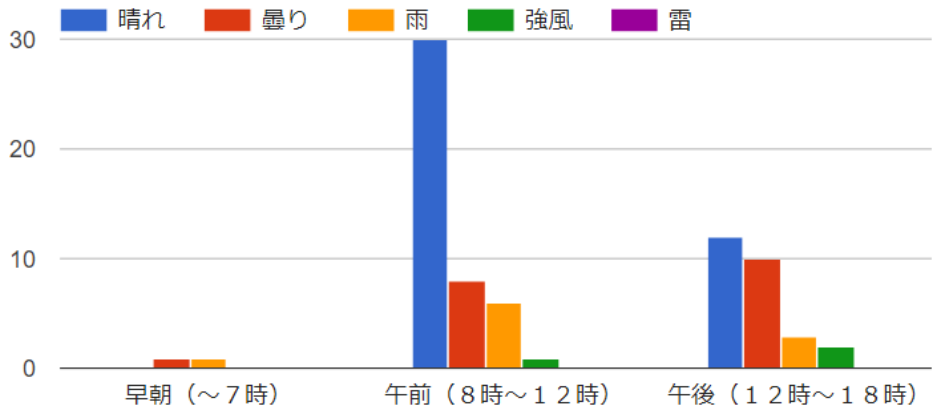
＊これは、アンケートにご協力いただいた方の事故・ヒヤリハット経験の有無についてまとめたデータです。答えてくれた方の多くは経験があるから回答したと思いますので、ガイドの平均的な経験値ではありません。

２．事故・ヒヤリハットの起きた場所・内容（61 件中）

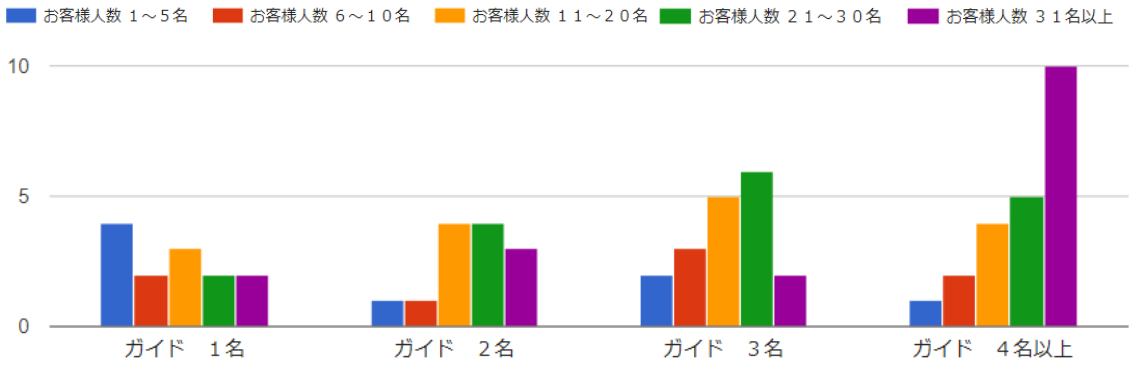
場所			内容		
１位	登山道	18 件	１位	転倒	27 件
１位	その他	18 件	２位	熱中症	５件
３位	整備された舗装路・遊歩道	14 件	３位	虫刺され（ハチ・アブ）	３件
４位	海岸	４件	４位	ウルシ・疲労・落石・自動車接触 高波・二日酔い（飲酒）	各２件

＊その他（場所）：洞窟の入り口・ジオサイト・山の火山灰斜面・施設入り口・沢登り・露頭・川の上（カヌー）・園地・庭の池・昼食会場・橋の上・駐車場・観光船上など

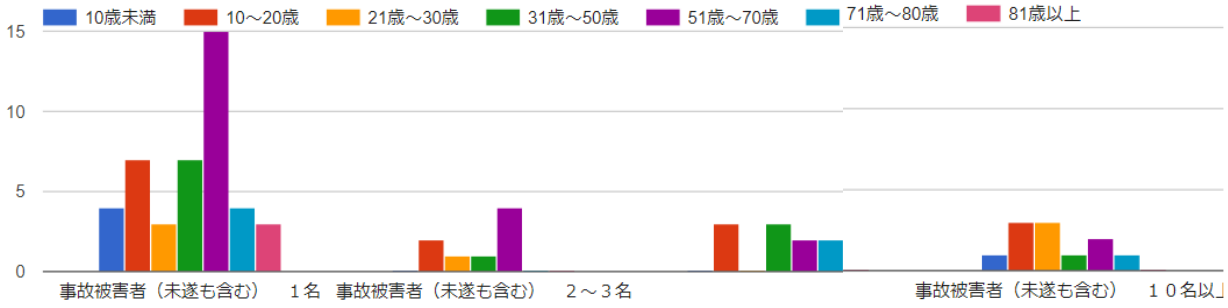
３．事故・ヒヤリハットの起きた時間帯・天候



４．ガイド（同行の職員等も含む）何名で何名のお客様を案内していたか。



５．事故にあった・あいそうになった方の人数と年齢について



事例 No.	1	タイトル	小学生が岩場を飛び下り転倒、擦り傷を負う
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	未整備・ツルツル滑りやすい海岸の岩場
状況	晴れの午前中。学校のジオ学習の中で、飛び降りてはいけない岩場の段差を飛び降りた 1 名の小学生、着地時に滑って転倒。 幸い擦り傷程度で、先生にこっぴどく叱られるまで、本人も大事と考えてない様子。 滑りやすい岩場故に、頭を打っていたらと思うとヒヤリとさせられました。		
対応	本人に怪我の有無を確認、返事をするのに問題ないことを確認、先生を呼んで報告、以後の対処を引き継いだ後は、その他のメンバーへの対応を行いました。		
原因	遠足のように学年単位で外に出かけるジオ学習は、子供たちにとっては楽しいイベント。つい、はしゃいでしまい注意を忘れてしまう。		
再発防止	子供たちには、危険なことをしつこく、何度でも重々伝えるしかありません。 先生にもその危機感を共有して頂き事故防止に協力して頂く。		
その他（日頃の備えなど）	ガイド担当同士での公的な下見の後、個人で前日に下見をしておく。 何かあったら、他のガイドや先生に共有する		

事例 No.	2	タイトル	洞窟の入り口で頭をぶつけそうになる
報告者の立場	参加者の立場で報告		
分類	ヒヤリハット	環境	洞窟の入り口
状況	曇りの午後。石切り場（洞窟状）の入り口が急坂だったから顔をぶつけそうになった		
対応	誰にも気付かれず良かった。怪我もなかった。		
原因	遠近両用メガネをかけていた		
再発防止	前方からの声かけがもっとあれば良かった		
その他（日頃の備えなど）	安全要員もガイドとして、大事な仕事だと実感しています。		

事例 No.	3	タイトル	河原の石をまたぎきれず川に浸かる
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	川原の温泉
状況	晴れの日の午前。川原の丸石と１ｍほど離れた丸石をまたいで渡ろうとしていた時に足を滑らせ川に浸かった。幸い足をくじくこともなくズボンを濡らすのみで済んだ。		
対応	複数のガイドが居合わせたので他のガイドからタオルを手配し、ズボンの濡れを拭き、事なきを得た。		
原因	石と石の間をまたげるだろうという過信があったと本人は述べていた。体力に見合った渡り方を指示すればよかった。		
再発防止	くどくても危険が予想されるところでは、注意を喚起する。		
その他（日頃の備えなど）	常日頃から救急薬品、タオル、風呂敷、新聞紙など携行し、足のくじきや骨折等に対処できるようにしている。今のところ救急車を呼ぶような事故は起きていない。 直前の下見（少なくとも１週間前まで）を必ず行う。軽微な怪我に対する備え（救急用品・エピペン等）をする。緊急時のマニュアル・記録用紙を常備する		

事例 No.	4	タイトル	熱中症で倒れる
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	登山道上
状況	ウォーキング中に倒れる		
対応	別の参加者と協力して熱中症患者の抹消部分にペットボトルを当てて日陰にて休ませた。		
原因	こまめな参加者の観察が不足し、熱中症を訴えるまで気づかなかったこと。		
再発防止	こまめな参加者の状況確認と頻繁な水分補給の呼びかけが不足		
その他（日頃の備えなど）	自身による下見および団体としてのルートの検討会、必要装備や注意事項の案内。いくら準備しても突発事故は起こりうるので、参加者も自己防衛を心がけて欲しい		

事例 No.	5	タイトル	アイスバーンで転倒、そして腕を骨折
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	登山道？
状況	トレッキングルート上のオフロードで転倒、腕を骨折する。		
対応	三角巾で吊り、結局タクシーで途中離団をして病院に行ってもらった。		
原因	しゃべりに夢中になって路面に対して不注意であった。		
再発防止	事前に注意事項（天候･路面状況）をもっと徹底して案内し、該当部では特に留意をさせること、本来的にはもう一人団体の中間にスタッフを配置できる余裕が欲しかった（ガイド２名でお客様 21~30 名）。		
その他			

事例 No.	6	タイトル	一般客が投げた石が参加者に当たりそうになる
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	登山道
状況	晴れた日の午後。ジオサイトが験担ぎとして高い場所に石を投げ入れる風習がある大岩で、説明中にツアー客ではない一般客が石を投げ入れようとしていた。しかしその投げ入れる場所はちょうど説明する際のツアー客が立っている位置のほぼ真上にあるため、投げ入れようとしていた一般客に危険であることを説明し自粛してもらった。		
対応	頭上方向への投石は自粛願いたいと注意。		
原因	不安全行動（危ない動作や軽装など、参加者の行動が引き金となった）		
再発防止	ツアー参加者だけではなく、その場に居合わせる一般の登山客への配慮ならびに安全喚起も必要であると思った。		
その他（日頃の備えなど）	・今年は酷暑であったため、熱中症の危険があるため中止することも検討した。幸いツアー当日はそこまで気温が上がらず催行できたが、晴れているからといって必ずしも催行すべきではないと実感した夏であった。 ・暑い中での塩アメ配布は、ツアー参加者が高血圧などであった場合ポカリスエットなど塩化ナトリウム・カリウムを含むスポーツドリンクと併用すると急激に血圧が上昇する恐れがあり、ジオツアー関係者には広く情報共有していただきたい事例であると思われる。		

事例 No.	7	タイトル	ツタウルシが近くにあった
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	里山での森林内舗装路
状況	森林内の舗装路を通行中、手が届く範囲に猛毒のツタウルシが生えていたため、注意喚起を行った。		
対応	ツタウルシについてはどれがそうであるかを説明した上で、敏感な人は近づくだけでもかぶれる恐れがあることを伝え、注意喚起を促した。		
原因			
再発防止	・有毒な昆虫や植物がコース上にいない、あるいはないか。ある場合はどのように回避すべきかあるいは対応（排除含む）すべきか共有している。 ・気象条件の急変や、ツアー直前・最中に雲に包まれることがありコースの岩などが濡れて滑りやすくなることが多い。なので参加者にはケーブルカーやロープウェーを使う行程であっても必ず登山に適した靴及び服装での参加を呼び掛けている。		
その他（日頃の備えなど）	ジオガイド関係者の多くが学術系の出身と思われるが、それゆえ危機管理についていまひとつ理解が足りない感が否めない。あるいは見通しが甘い。 ありえないなんでことはありえない、という心づもりで常に危機管理能力の向上に努められたらと思う。		

事例 No.	8	タイトル	雨で滑りやすい路面で、転びそうになる
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	梅園
状況	雨の日の午前。通路が雨で滑りやすくなっていたため、下りで足を滑らせて倒れそうになった。		
対応	沢沿いの道であり転倒が心配されたため、ガイドが近くで付き添うようにした。		
原因	高齢のため脚力が落ちていて、下りで勢いがつくと体重を支えることが困難となる。足元の悪い場所は、健脚の方にお勧めしたい。		
再発防止	・通路については、参加者の年齢・体力を考慮して選択したい。 ・ジオツアー参加者には、事前にルートの難度を告知して募集しているが、自己判断に任せているので、開始時点での体力や健康状況のチェックは欠かせないと思います。		
その他	通路の潜在危険個所の洗い出しをして、対応していく。		

事例 No.	9	タイトル	登山道の濡れた岩で滑って転倒
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	登山道
状況	曇りの午後、霧で見通しが悪く、登山道の濡れた岩で足を滑らせ転倒した。		
対応			
原因	登山道が雨に濡れて滑りやすい状況となっていた。		
再発防止			
その他			

事例 No.	10	タイトル	山道で足を滑らせ転倒
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	山道
状況	曇りの午後、悪天で滑りやすい状況となっていた山道で、足を滑らせて転倒した。		
対応	道路までけが人を搬送し、その後友人が車で病院へ。		
原因	足元の悪い場所で、悪天により滑りやすい状況になっていた。		
再発防止	足元の危険性を周知する。		
その他（日頃の備えなど）	・ガイド直前に下見を行い、前々日からの天気の状況に注意する。。 ・説明を歩きながら行わない。（上や遠方に意識を向けさせる際は特に注意）		

<table>
<tr><td>事例 No.</td><td>11</td><td>タイトル</td><td colspan="2">歩行が困難に（熱中症の疑い）</td></tr>
<tr><td colspan="2">報告者の立場</td><td colspan="3">ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）</td></tr>
<tr><td>分類</td><td colspan="2">事故</td><td>環境</td><td>整備されている遊歩道</td></tr>
<tr><td>状況</td><td colspan="4">晴天の午後に、屋外観察会に参加していた参加者が歩行困難となった。</td></tr>
<tr><td>対応</td><td colspan="4">初期の熱中症を疑い、個別で歩行介助と個別休憩・給水介助を行った後、本人の希望を聞き最寄りの駅まで送迎した。(駅に着いたのは、行事解散の１時間後)</td></tr>
<tr><td>原因</td><td colspan="4">７月の梅雨明けの夏季の猛暑
参加者の中で最高齢者（８０歳以上）</td></tr>
<tr><td>再発防止</td><td colspan="4">・不特定多数の募集行事の内容を検討
・猛暑の時期を避けて行事を行う</td></tr>
<tr><td>その他
（日頃の備えなど）</td><td colspan="4">・救急拠点について事前に調査を実施（救急車・タクシーなど）
・高齢な方をガイドする際、複数のガイドからベテランのガイドを充てるようにしている。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>事例 No.</td><td>12</td><td>タイトル</td><td colspan="2">長距離巡検に高齢者がついていけずタクシー呼ぶ</td></tr>
<tr><td colspan="2">報告者の立場</td><td colspan="3">参加者</td></tr>
<tr><td>分類</td><td colspan="2">ヒヤリハット</td><td>環境</td><td>市街地</td></tr>
<tr><td>状況</td><td colspan="4">雨の日の午後、主として市街地や住宅地を歩く巡検（３０名くらい）でしたが坂の上り下りが多く歩行距離も長いので老人にはきつい巡検でした。 ８０代の参加者が午後３時過ぎにはかなり疲れて、列についていけなくなりました。高齢であったことに加えて寒い日だったので疲れもあったようです。 しかしガイドは次の訪問先で先方の学芸員の案内役の方が待っているため、遅れないよう先を急ぎました。</td></tr>
<tr><td>対応
（日頃の備えなど）</td><td colspan="4">ガイドは参加者の一人であった私にその人をバスかタクシーに乗せて次の訪問箇所へ連れて行ってほしいと頼みました。私はバスでその方を次の訪問先へお連れし追いつきましたが強行軍のスケジュールだと思いました。</td></tr>
<tr><td>原因</td><td colspan="4">・巡検のコース（歩行距離が長く、坂の上り下りが多い）
・市街地や住宅地の巡検なので楽なコースだろう、と安心していた。
・寒さ、高齢による疲れ
・ガイドがスケジュールを重視し、先を急いだ</td></tr>
<tr><td>再発防止</td><td colspan="4">・高齢者が参加している場合は急病も含めさまざまなケースを想定するとともに、体力が必要な巡検については募集時に周知しておくことも必要。
・当日も挨拶時に徹底する。
・ガイド以外に緊急時の対応者も同行させる。</td></tr>
<tr><td>その他
（日頃の備えなど）</td><td colspan="4">・十分な下見
・参加申し込み者のプロフィール（年齢、性別、初めてか複数回目か）を知る
・コースの全体像とスケジュールを理解させる。
・安全担当者を決めておく（特に交通事故対策）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>事例 No.</td><td>13</td><td>タイトル</td><td colspan="2">露頭で落石の危険あり</td></tr>
<tr><td colspan="2">報告者の立場</td><td colspan="3">ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）</td></tr>
<tr><td>分類</td><td colspan="2">ヒヤリハット</td><td>環境</td><td>一般道路に接している花崗岩の露頭で整備はされていない</td></tr>
<tr><td>状況</td><td colspan="4">晴れの日の午前、露頭の最上部 7 m 位にある大きな花崗岩の割れ目に山桜が根を下ろし、花崗岩の割れ目が崩れて落石の危険性があり、また地震の際には落石となる危険率が高い
・参加者は落石が起きた際に機敏な判断や動作ができない状態の人</td></tr>
<tr><td>対応</td><td colspan="4">露頭最上部の大きな割れ目の真下で参加者にガイドを避け、「頭上の落石に注意！」と声を出して、露頭の前の道路の反対側に参加者を誘導し、その場でガイドを行った。</td></tr>
<tr><td>原因</td><td colspan="4">不安全状態</td></tr>
<tr><td>再発防止</td><td colspan="4">ジオツアーの主催者である推進協議会が取り敢えず、「落石に注意！」の看板を設置すること。次に露頭の最上部の大きな割れ目のある岩を撤去するための調査をする。そして撤去工事の費用予算を取り、出来るだけ早く撤去工事を行う。工事完了までは、「落石に注意！」の場所を通過する場合は、現場の前で一度止まり、危険な理由や歩くルートを伝える。ガイドがルートを先導して行き、参加者の状況を見守ること、露頭の真下でのガイドしないことなどの周知を徹底する。</td></tr>
<tr><td>その他
（日頃の備えなど）</td><td colspan="4">傷病者を発生させないために、事前の下見を十分にして危険箇所を把握し、危険を回避する方法を考える。行程、参加人数や年齢層などに応じて、適正な人数のガイド・スタッフを配置する。</td></tr>
</table>

事例 No.	14	タイトル	注意を聞けない生徒の行動であわや事故に
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	山の火山灰斜面
状況	晴れの午前、中学生の団体約４０名を４人でガイドしていた。子供達が砂滑りをしたくて山の斜面を駆け上がって行った。下から「斜面にある石の上に乗らないように」と注意したが、ある生徒が注意を聞かず、石の上へ。石が動いて斜面を転がり、下にいる生徒にぶつかりそうになった。		
対応	幸い事故には至らなかったが「動き出してからの注意は聞こえない」と考え、行動開始前に厳重に注意するように、またそれでも言うことを聞かなかった時のために、斜面の上に石がない場所へ誘導してから登ってもらうようになった。		
原因	今まで他の人も同じように登っていた場所だが落石は経験がなかったため、油断があった。また、ハイテンションになった中学生が「静止する声が聞こえない」状況になることも理解しておくべきだったと思う。		
再発防止	「動き出してからの注意は聞こえない」と考え、行動開始前に厳重に注意するように、またそれでも言うことを聞かなかった時のために、斜面の上に石がない場所へ誘導してから登ってもらうようになった。		
その他（日頃の備えなど）	熱中症予防に水を飲むように声かけても飲まずに頭痛を訴える子供がいた経験から、声かけだけでなく止まって時間を作り水を飲むのを確認するようにしている。また飲みきってしまう人たちのために夏は予備の水や凍った水を１Ｌ以上は余分に持つようになった。冬はヒートロスを避けるために暖かい飲み物を多めに用意する。強風の時の稜線は歩かない、雷雨はツアーを行わない（小雨は実施）、斜面を歩くときは歩き方をアドバイスする、他に噴火、マムシその他、必要な場所で考えられるリスクの避け方を話す。ポイズンリムーバー含む救急薬品を持つなどなど、いくらでも出てくるが、大切なことは、いかに危険を予測し、事前にリスクを減らせるかだと感じている。初めてのコースを組むときは下見は必須（あまり初めてのコースはないが…）それでも…目の前で火口壁が前触れもなく崩落したり、いつもと違う場所から噴気が上がったりするのに出会うと、野外を歩く限り１００パーセントの安全はないと実感する。		

事例 No.	15	タイトル	遊歩道にマムシ
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	海岸にある岩場の遊歩道
状況	曇りの日の午前、海岸の狭い岩場の遊歩道で、先頭を歩いていると２メートル前方にニホンマムシがいた。20 ㎝ほどの子供で、前夜の雨で山から流れ落ちた模様。		
対応	後ろのお客様に石を拾ってきてもらい、私が投げつけたが当たらず、大きな口を開けられ威嚇された。凶暴だが動作は鈍いので、再度石を投げると、遊歩道から下の方に落ちていった。弱った感じなので安全を確認した。		
原因	前夜の雨で山から流れ落ちた模様。		
再発防止	・もっと早めに前方をみる。長い棒を持つ。 ・山中では注意はするがまさかの岩場だったので驚いた。小さいと気付きにくいかもしれないので、くれぐれも注意の必要を感じた。		
その他（日頃の備えなど）	ロープ、傷テープ、水		

事例 No.	16	タイトル	パンプスを履いた女性が山道で足をくじく
報告者の立場	ツアー参加者		
分類	事故	環境	山岳道
状況	曇りの日の午後、少しヒールの付いたパンプスを履いた女性が、山道で足をくじき捻挫を起こし歩行不可能になったために、車で病院に搬送した。		
対応	待機していた主催者の車で病院に搬送した。		
原因	服装・装備の参加基準を満たしていない人を参加させた。		
再発防止	服装・装備の参加基準を設定したうえで、満たしていない参加希望者を参加させないしっかりした対応。		
その他（日頃の備えなど）	ジオツアー募集要項に、山道の程度や必要装備(登山靴 等)を明記		

事例 No.	17	タイトル	自転車走行中にすぐ横を自動車が通過
報告者の立場	ツアー参加者		
分類	ヒヤリハット	環境	一般道路。ゴミが少しある程度の整備状況
状況	晴れの日の午前、自転車を移動手段とするジオツアーの移動中、縦一列で自転車走行していたが、列の真ん中を走っていた自転車が少し右側に寄った時に、自転車のすぐ縁をスピードを出していた乗用車が通り抜けた。後方から見ていた私は、接触するかもしれないとヒヤッとした。		
対応	後方から車がスピードを出して近づいてきたので、誰も対応出来なかった。		
原因	普段はあまり自転車には乗らない人が落ちていたゴミをよけるために右に寄って、元に戻ろうとした時に乗用車がすぐ側を通り抜けた。 主催者側が一般道路を走る自転車ジオツアーの安全対策不足		
再発防止	①主催者側は参加者の自転車走行の熟練度の把握と縦１列走行ルールの周知徹底を行う。 ②肉声では聞こえない環境なので、安全管理担当者は最後尾から拡声器を使って「車が来ます！」と隊列全体に注意を喚起すること。 ③自転車隊列の存在を道路を走っている車に認識させるために、目立つ色の幟や旗を安全管理担当者の自転車に取り付ける。 ④下見だけでなく直前にも、自転車走行コースの道路を清掃して、ゴミや石や砂などを除去し、隊列が乱れないようにする。また転倒防止効果にもになる。		
その他（日頃の備え、事前の準備など）	自転車ジオツアーは、歩行やバスで移動するジオツアーと比較すると事故が起こるリスクは格段に高いことを認識すること。複数の安全管理担当者の配置が必要である。 参加者募集の際には、自転車操作がスムーズにできることを条件にすること。また入念な下見と準備が必要である。自動車との接触事故回避や荒天時の対応、パンクなど自転車自体のトラブルに対応できる自転車整備経験者の配置と必要な工具の装備、参加者に転倒しても軽傷ですむように肌の露出を少なくすることの周知、等		

事例 No.	17	タイトル	パンプスを履いた女性が山道で足をくじく
報告者の立場	ツアー参加者		
分類	事故	環境	山岳道
状況	曇りの日の午後、少しヒールの付いたパンプスを履いた女性が、山道で足をくじき捻挫を起こし歩行不可能になったために、車で病院に搬送した。		
対応	待機していた主催者の車で病院に搬送した。		
原因	服装・装備の参加基準を満たしていない人を参加させた。		
再発防止	服装・装備の参加基準を設定したうえで、満たしていない参加希望者を参加させないしっかりした対応。		
その他（日頃の備えなど）	ジオツアー募集要項に、山道の程度や必要装備(登山靴 等)を明記		

事例 No.	18	タイトル	堤防を越える高波が来襲
報告者の立場	ガイドサポート		
分類	ヒヤリハット	環境	海岸
状況	曇りの午後、大学学生の野外実習として海岸で岩石の観察のサポートを行っていた。台風が北上している 状況であったが思ったほど波浪が大きくなく実習を実施。ふと気づくと先ほどまでごぼごぼ岩礁を洗っていた波音が止み潮が引いている。		
対応	ちょうど観察が終わっていたので急遽堤外への避難を呼びかけ、堤外への移動が済んだ時、堤防を越える高波が来襲、難を逃れた。		
原因	台風が接近していた。		
再発防止	海岸の突発的な高波については事前に予測がつきづらく、台風の接近時のような状況では、そもそも実施を中止するのが無難。 予測される危険に対して充分なリスクマネージメントが必要。		
その他（日頃の備えなど）	直前に工程を実際に歩くなど、リスクの検知、ガイド内容の変更について事前検討を実施している。		

事例 No.	19	タイトル	移動時に斜面に足を滑らせ転倒
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	観察路
状況	参加者の一人がすぐ前の参加者との距離が窮屈になり、反射的に観察路から脇の斜面に踏み出した時、滑って転倒し尻もちをついた。本人はすぐに立ち上がって観察路に戻った。幸いに外傷と捻挫もなく、大事にはいたらなかった。		
対応	転倒者に外傷があるか、痛みはあるか、落ち着かせるなどの声掛けと怪我の状況を確認。その後痛みの発生が無いかを確認するために、転倒者に隊列の最後尾に移動してもらった。		
原因	案内する側は、小雨決行したので出発の際に①雨具着用、②転倒防止、③観察路からのはみ出し禁止を伝えて参加者に徹底を図ったことへの過度の安心感（注意したのだから気を付けてくれるだろう）。 される側は、雨で滑りやすいのは当たり前（言われなくてもわかっている）と軽く聞き流していたと思われる。		
再発防止	１．出発前の不安全行動の注意のみならず、危険箇所の前では隊列の歩行を一旦停止して、具体的に指差して説明する。もっとこまめに説明することを心掛ける。 ２．隊列の中では、傘は前後の人にとっては危険因子であるので使用禁止にする。 ３．雨天決行する場合、転倒防止のためのコースを設定する。 ４．狭い観察路をガイドする場合のガイドとスタッフの配置などの歩行誘導方法の検討と実施		
その他（日頃の備えなど	事前下見は複数回実施している。一日ツアーの場合は前日、半日ツアーの場合は当日に、必ず直前下見を行っている。ファーストエイドキットの薬品、絆創膏など医薬品と毛抜き、ピンセットなどの器具の点検。AED の設置場所、緊急連絡先リストなどのチェック。		

事例 No.	20	タイトル	移動時に河原の石で足を挫く恐れ
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	河原
状況	晴れの午前、川原で石の説明を行うために現場へ移動するときに河原の石が30-50ｃｍの大きさがあり丸く歩きにくく足首をひねる恐れがあった。		
対応	石を移動させることはできないので全員に注意喚起した。		
原因	歩くコースの事前確認ができていなかった。 （石の丸い部分には乗らない/間の平たい部分を歩くなど）		
再発防止	事前確認をチームで実施。		
その他 （日頃の備えなど	事前確認を行っている。（本案件発生後から）		

事例 No.	21	タイトル	下山中に足を滑らせ転倒滑落
報告者の立場	参加者		
分類	事故	環境	山道
状況	① 下り坂道中に、木材による足止めが階段状に敷いてあったが、側道を歩いたため、足を滑らせて転倒滑落した。怪我は無かった。 ② いわばの表面が経年の摩耗により滑らかなため、雨に濡れて滑りやすかった。当事者の体力があったために踏ん張り、転げ落ちなかったので、怪我は無いとのことだが、筋を伸ばしたのでは？と心配した。		
対応	当事者に怪我・体調の確認をした。体力のある人でしたが、経験不足のため、靴の履き方（紐が緩かった）が悪かったため、下山後に足の指と爪に内出血したことを聞いた。下山に入る前には靴紐の確認を呼び掛けたいと考えた。		
原因	山道が雨に濡れていて滑りやすくなっていた。		
再発防止	事前の説明いがいにも、こまめな注意喚起が必要と思います。 直近の下見の他に、天候により、晴天・雨天の 2 コースを準備する。		
その他 （日頃の備えなど	案内や説明をあまり盛沢山にせずに、時間に余裕をもったツアーを心掛けている。研修や巡検のようにならずに、参加者が同じ景色や空気を共有し、楽しいねと話し合うような雰囲気を醸し出したいと思っている。		

<table>
<tr><td>事例 No.</td><td>22</td><td>タイトル</td><td colspan="2">参加者から「夏期ツアーはきつい」という感想を受ける</td></tr>
<tr><td colspan="2">報告者の立場</td><td colspan="3">ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）</td></tr>
<tr><td>分類</td><td colspan="2">ヒヤリハット</td><td>環境</td><td>山頂付近の整備された登山道</td></tr>
<tr><td>状況</td><td colspan="4">晴れの日の午前中。平地は猛暑日であった。山頂付近は約 29℃。標高差が 80m ある登山道を 2 時間 30 分歩くツアーを行った際、参加者からの事後アンケートに「夏季のツアーはきついですね」との感想があった。幸いに事故は起きなかったが、参加者にきつい体験をさせたことは事実である。</td></tr>
<tr><td>対応</td><td colspan="4">熱中症対策である。熱中症は、高温、多湿環境下で長時間行動すると起こりやすい症状である。汗をかくことで、体内の水分や塩分が減少したりするので、水分と塩分をスポーツドリンクなど補給することが大切。15 分を目安に「水分補給の時間ですよ」と伝え、参加者への声掛けする際には、参加者の顔色をチェックしながら「ちょと疲れていませんか？」、「のどが渇いていませんか？」と具体的な質問をするように心掛けた。日差しが強い場合は、参加者に直接日があたらないように、ガイドの立ち位置を考慮した。</td></tr>
<tr><td>原因</td><td colspan="4">案内する側（主催者側）は受付終了後に参加者の年齢層が把握できていたが、リスクマネージメントに反映されていなかった。ツアー当日に熱中症対策を しっかりやれば良いのレベルのリスクマネージメントであったと言わざるを得ない。される側の高齢者がジオツアーに何とかついていったと考えると、当日事故が起こらなかった偶然であったと言える。案内する側は、高齢者に配慮することであり、される側は、高齢者自身の参加である。双方に関わるキーワードは、高齢者である。</td></tr>
</table>

再発防止	① 地域の消防署がおこなう AED 講習会や応急救護処置講習会を受講する。 ② 傷病者を発生させないために、事前の下見を十分に行い危険箇所を把握し、対策を決める。 ③ 行程、参加人数などに応じて、適正な人数のスタッフとガイドを配置する。今後は年齢層に応じた対応を追加する。 ④ 緊急連絡や緊急車両の要請に携帯電話を使用することもあるので、ガイドの携帯電話の電波が入る場所をあらかじめ把握しておく。 ⑤ ツアーコースに最も近い AED 設置場所を把握しておく。 ⑥ スズメバチの巣がツアーコースにあり、人が近くを通るとスズメバチは警戒行動をとるので、急な動きしない、走らない、黒い服は危険なので避ける。 ⑦ 救急用品：消毒薬、テーピングテープ、ポイズンリムーバー、抗ヒスタミン軟膏、滅菌ガーゼ、ライター、毛抜き、使い捨て手袋・ポケットティッシュ、包帯 ⑧ ストック：使用するだけでなく、負傷者の移動に役立つ。 ⑨ ジオツアー直後の振り返りを必ず行う。
その他（日頃の備えなど	ジオツアーといえども自然の中では危険が隣合わせということを感じた。

事例 No.	23	タイトル	山道を歩いた後に倒れる（狭心症）
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	神社境内
状況	曇りの日の午後、山道を 1 時間程歩いた後に倒れ、救急車で病院に搬送された。現在は健康。		
対応	救急車の手配、意識確認、気道確保、家族への連絡		
原因	参加者の持病（狭心症）		
再発防止	持病がある場合や健康・体力に不安がある場合は事前に申告してもらうようにして、無理をさせない。		
その他（日頃の備えなど	下見、適切な服装・装備の案内、保険（旅行障害共済）		

事例 No.	24	タイトル	施設の看板が落下
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	屋外・施設入口付近
状況	晴れの日の午前。施設入口上部に設置された看板が落下し、人に当たりそうになった。		
対応	落下した看板の撤去、危険な思いをされた方への謝罪		
原因	看板の老朽化		
再発防止	老朽化のチェック（施設管理者の問題でもありますが）		
その他（日頃の備えなど			

事例 No.	25	タイトル	凍結した路面で足を滑らせ転倒
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	屋外・駐車場
状況	晴れの日の午前。凍結した路面で滑って転び、額をぶつけて怪我をした。		
対応	頭部の怪我なので、念のため病院へ連れて行った。		
原因	路面の凍結		
再発防止			
その他（日頃の備えなど	冬期のツアー中には、雪や氷で滑るので足元には十分注意するよう声掛けしている。滑りにくい靴での参加を薦めたり、歩き方をレクチャーすることもある。		

事例 No.	26	タイトル	山の斜面で足を滑らせ滑落
報告者の立場	参加者		
分類	事故	環境	屋外・山道。整備状況悪い
状況	雨によりぬかるんだ地面で足を滑らせ、２～３m 下まで斜面を滑り落ち、軽症（擦り傷程度）。		
対応	手を貸して斜面を引き上げ、他の参加者への注意喚起を行った。		
原因	雨により地面がぬかるみ、滑りやすい状況にあった。		
再発防止	山道の整備、悪天候時のコース変更や中止の決断。		
その他			

事例 No.	27	タイトル	下見で得た情報で危険を回避
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	屋外・沢登り
状況	ツアーコースの下見を行った際に、普段よりも川が増水しておりコースを歩く際に危険を感じた。 （渓流に橋が 10 か所ほど架かっている。橋はしっかり整備されているが、橋から下を見ると水量があり急流で怖い・水面から橋までも高く怖い、橋を渡るのに靴が滑りやすい・足がふらついて落ちそうだ。渓流の流れに目を奪われ怖さを感じて足が出ない所もある。）		
対応	ツアー客に事前注意や持ち物の徹底・心配者向けに容易な別コース急遽計画して実施。当日のツアーは問題なく全うできた。		
原因	天候等により河川が増水したためと考えられる。		
再発防止	ツアーは全員が安全を第一として、そのために必要な準備は万全にして行う。		
その他 （日頃の備えなど	現場は絶えず変化しているので、必ず下見をしている。必要な場合はツアー客に下見での現地の様子を伝えて、身支度や靴・杖・軍手等必要事項を連絡している。手に荷物はもたない。当日お客さんの身体特徴や状態をガイド達が判断し、心配な人向けに希望による軽い別コースも準備しておく。		

事例 No.	28	タイトル	露頭から滑り落ちそうになる
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	屋外・露頭・整備不十分
状況	晴れの日の午前。足元の露頭がやや柔らかになっていたが、見学したい客が夢中になっていた。気を付けるように言ったが、その意味を理解しなかったと思う。足元がやや不安定になり、下は湖なので滑ると危なかった。 危険なところまで降りて見に行き、３人程が危うく滑り落ちそうになってしまった。お客さんは注意事項をしっかり理解していなかったらしい。		
対応	繰り返し注意を促し、その場から離れさせた。他のお客さんには近寄らせずに、離れたところから眺めてもらった。ガイドが協力してそのように対応した。		
原因	整備が不十分な露頭をガイドコースに選定していた。 「お客さんが分かってくれるだろう」は甘い。絶対安全であるガイドをすべき。		
再発防止	見学に安全な整備ができていないため、今回の案件が起きた露頭には現地見学を行わないようにした。 現場の危険について参加者に伝え、全員が離れた場所から見学するように徹底した。 危険や心配があるところには多人数での見学はしてはならない。		
その他（日頃の備え、事前の準備など）	現場は絶えず変化しているので、必ず下見をしている。必要な場合はツアー客に下見での現地の状況を伝えて、身支度や靴・杖・軍手等必要事項を連絡している。手に荷物はもたない。当日お客さんの身体特徴や状態をガイド達が判断し、必要な人向けに希望による軽いコースも準備しておく。		

事例 No.	29	タイトル	ジャンプ着地時に足に違和感
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	屋外・散策道
状況	曇りの日の午前中。大学院生。散策道にてジャンプし着地した際に、足に違和感を覚えたとの報告がツアー終了数日後にあった。		
対応	当日の報告もなく、転倒等もなかったことから周囲の参加者も気づかなかった。ツアー参加者に保険をかけていることから、速やかに受診勧奨を行った。		
原因	湿度などによって雨天以外での路面が滑りやすい環境となる場合がある		
再発防止	晴れや曇りの日でも水が染み出している部分などもあり、事前の注意や説明などは行っているものの、再度の確認やアナウンスが必要		
その他			

事例 No.	30	タイトル	滑りやすい遊歩道で注意喚起
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	遊歩道・整備不良あり
状況	曇りの日の午後。雨上がりの遊歩道がコンクリート舗装ではなく、傾斜のある土のため滑りやすくなっており、事前注意以外にその場での注意喚起が必要と感じた。		
対応	現場でのガイドが連携し、対象者への注意喚起と先生との連携を行った。		
原因	先日の雨で遊歩道が滑りやすくなっていた。		
再発防止	事前の下見の実施が大切。 特に子供さんの場合のガイドは「想定外の行動」が発生することを念頭に計画をすることが必要と考えています。		
その他（日頃の備えなど	雨の日の装備を含めての装備も大切ですが、事前の下見の実施（ガイド間で共有）と次回以降のガイドに参考になるように反省会とガイド計画書へのその旨の危険を記入しています。		

<table>
<tr><td>事例 No.</td><td>31</td><td>タイトル</td><td colspan="2">参加者が想定外の行動をし、ツタウルシを触る</td></tr>
<tr><td colspan="2">報告者の立場</td><td colspan="3">ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）</td></tr>
<tr><td>分類</td><td colspan="2">事故？</td><td>環境</td><td>一般道路（舗装路）</td></tr>
<tr><td>状況</td><td colspan="4">曇りの日の朝。ケヤキの木にツタウルシが取り付いていたので、ジオツアーの参加者にこの植物の危険性について説明をしていた時の事。ある 60 代半ばと思われる男性が、何を思ったのか、このツタウルシのツルを引っ張り出して、こんな植物を触っただけで皮膚がただれるのかと聞いてきた事には、大変驚きました。理解しがたい行動で初めての経験でした。</td></tr>
<tr><td>対応</td><td colspan="4">ツタウルシの葉などの特徴を伝え、触らないように注意を行った。</td></tr>
<tr><td>原因</td><td colspan="4">参加者の想定外の行動</td></tr>
<tr><td>再発防止</td><td colspan="4">危険な箇所等は、資料等で注意喚起を促しますが、危険生物に関してはよく見落とされています。今まで、ジオツアーの下調べなどでも昆虫や植物以外に、マムシやヤマカガシなどにもよく出会います。これらの生き物の事も、口頭だけでは理解してもらうのが難しいので、資料等を作り理解してもらうのが良いのではと考えています。
スズメバチ類が、出現しそうな場所へ行く場合には事前に、スズメバチへの対処法を全員に伝授します。具体的には、一般の方がよくやる、手で払う行為は行わない事、大声で騒がない事等、また、人間がスズメバチに対して攻撃を仕掛ける行為や捕獲などの行為も問題があります。まず、人間が攻撃して確実に仕留める（撃退）事が出来た場合には問題が無いのですが、取り逃がした場合には応援の仲間を呼びに行く為、非常に危険な事になります。捕獲した場合でも、完全密封容器に入れない限り、SOS のフェロモンを出し、仲間を呼ぶ為、危険です。人間がスズメバチに対して攻撃を仕掛けた場合でも SOS の信号を出すのでやってはいけません。では、どうするのが一番良いのか？それは、自分が石に成ったつもりで、八つ数える間、じっとしている事が肝心です、相手がハチなので、8 数えましょう。自分の身体にハチが止まってもじっと我慢です。</td></tr>
<tr><td>その他（日頃の備え、事前の準備など）</td><td colspan="4">スズメバチやムカデに刺された場合の薬品を持ち歩くようにしている。
危険生物のハンドブックも持ち歩くようにしている。
ジオサイトは、大抵、岩場の露頭が相場である為、地質・地形に関連した危険のみに目がいきがちで、危険管理もそちらの事だけに終始していて危険生物にふれたのは皆無というのが現状です。危険な生き物がいることを知ってもらうのも大変大事な事だと私は思います。</td></tr>
</table>

事例 No.	32	タイトル	山道で転倒し谷底まで転がり落ちる
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	登山道（一般的なハイキングコース）
状況	晴れの日の午前中。先頭と参加者の間、最後尾に案内者が入って歩いていた。山道に入ってすぐ、１０分ほど歩いたところで、参加者の一人が転倒し、斜面を５ｍほど下の谷底まで転がり落ちた。		
対応	参加者の１人が転倒したので、案内者２名が斜面を走り下り滑落を停止しようとした、しかし、斜面の途中で停止させることはできなかった。ケガや気分を訊ねて、身体の状況を見せてもらったところ、手に擦り傷を負っていたが、そのほかにはこれといった傷もなかった。傷を洗って消毒し、傷絆創膏を貼る処置を行った。無理をしないで、その場で下山することを勧めたが、歩きたいという意思が強いので、案内者の１人が付き添って歩き、最後まで歩き通した。下山コースの途中にある急斜面をトラバースする所では、用意していたザイルを張って、補助した。解散時に、今回の転倒によって身体の不調などがあれば、医療費は保険により補填する事を伝え、連絡先を渡した。		
原因	参加者が高齢で足腰が弱くなっていた。 若いときに登山経験があるということで参加していた。		
再発防止	準備運動を十分に行い、身体を足腰の動きがなめらかになるよう、身体を温める。健脚向きの登山と明記してご案内しても、足腰が弱い高齢者が参加することがある。無理をしないように勧めるとともに、ストックを持つことなどを勧める。		
その他（日頃の備え、事前の準備など）	下見を行い、安全確保が難しい場合には、コースの再検討を行っている。 また、一般の登山道であっても、必要であればザイルを用意して安全を確保している。当日は救急箱を携行するだけでなく、飲料水などを積んだ自動車を伴走させ、休憩場所での給水や、緊急の搬送に対応している。		

事例 No.	33	タイトル	カヌー体験であわや転覆
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	川の上・カヌーで移動
状況	２人乗りカヌーが岸に風で吹き寄せられてしまい、1 人の子が川遊びをした時の水深の浅かったことが念頭にあり、船を押し出しすべく、深さの確認をせずに水に入ったが足がつかず動転。ライフジャケットは着用しているが、カヌーの横から上がろうとしてカヌー転覆しそうになった。 水に入る前、オールで深さの確認をすることを伝えていなかった。入水は禁止していた。		
対応	レスキュースタッフが向かい、落ち着かせカヌーの後尾より這い上がる様指導して乗り込ませた。乗れない時は救助のために引き上げる様スタンバイしていた。		
原因	子供には、川遊びをした時の水深の浅かったことが念頭にあったため、川に入れば足を付けてカヌーを押せると思い込んでいた。 告知不足。		
再発防止	川の特性をしっかり伝えておくことが重要。		
その他（日頃の備え、事前の準備など）	参加者の付き添いを含め、試走を行い、注意点を共有している。 流れのゆるい川でもジオをテーマにすれば楽しいカヌーツアーが出来る。途中の中州で講義し、4 km 約６０分で下る。ジオカヌーは人気ですが、カヌーの運搬の車、人手がかかることからコストアップになるので上流・下流にカヌー置き場・トイレ等の施設が欲しい。		

事例 No.	34	タイトル	ジオツアー後に子供が貧血で倒れる
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	平地（園地）
状況	晴れの日の午前。ジオツアー（約２時間のハイキング）後、平地（園地）で小５女子１名が貧血で倒れる。		
対応	公園（園地）管理者のスタッフが対応（ジオガイドは対応無し）ジオツアー後のため、水を飲ませ横になり休息させた。		
原因	１泊２日のキャンプ、慣れないキャンプ後２日目のジオツアー時。天気・場所に無理なし。 キャンプのため寝不足、慣れない環境のため朝から体調が悪かった（引率教員には報告なし）体調不良（寝不足、朝食があまり食べれていない）不慣なハイキング		
再発防止	あらかじめジオツアー開始時体調のチェックを行う		
その他（日頃の備え、事前の準備など）	準備運動、体調チェック（ガイドは先生ではないので気軽に話して・コミュニケーションスキル）。歩き方（生徒）や顔色、仕草等気をつける。 近年ハードスケジュールな行程が目につく。せめてジオツアーぐらいはのんびり楽しめるように。コミュニケーションのためにスケジュール（行程）に余裕をつくる。		

事例 No.	35	タイトル	修学旅行のヤンチャなグループが話を聞かない
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	山道・簡易舗装路
状況	晴れの日の午後。修学旅行の団体の中にヤンチャなグループがあり、話を聞かない。ふざけている。先生も止めない。ジオツアーのコースには少し危険な箇所が有り、一人ずつ並んでいく山道、勾配はきつくない簡易舗装路（全行程）約１時間		
対応	ヤンチャグループにベテラン（危険管理が）のガイドをつけた。ヤンチャなグループに話しかけ、友達のように対応した。できるだけ風景や植物に触れ合い、気をそらした。ガイド責任者（会長等）にすぐ電話がつながる体制にした。		
原因	グループ行動（ヤンチャな集団）や心理（修学旅行でウキウキ）		
再発防止	リスクマネジメントを行う。集合時に生徒の雰囲気を読む		
その他（日頃の備え、事前の準備など）	リスクマネジメント（自然学校で行っているリスクマネジメント講習会に参加）。 必ずベテランのガイドを（リスクマネジメントができる）付かせる（特に修学旅行）。また遠方の土地柄等が分からないので学校の HP で下調べをする（ガイドのトークでも役立つ）		

事例 No.	36	タイトル	ジオツアーの昼食時に参加者がビール
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	昼食会場
状況	晴れの日の日中。地元の中高年の団体バスツアー（8:30ー17:00）。昼食時に数人がビールを飲んだ。ガイドは別席で食事していたが、ガイドの１名が運よく気づいた。		
対応	危険なコースを中止し、安全性の高いコースへ変更（午後より）		
原因	ツアー（団体）の責任者、不在（管理状態にない） 責任者不在のツアーや責任者の言う事を聞かない人々。団体行動・顔見知り・お友達等。		
再発防止	飲食までは注意できない（止められない）。昼食時はツアーでないから（この時は）。注意喚起しかできない（食事はブラックボックスなので）		
その他 （日頃の備えなど	ツアー時間以外でもお客様に注意を向けている。 旅行社が入り、ガイド・添乗員がいない場合特に注意している。 昼食飲酒で事故が起こってしまった場合、誰の責任になるのか。100%お客様が悪いとは言い難い？管理義務や注意義務		

事例 No.	37	タイトル	自宅敷地内の浅い池に幼児が落ちる
報告者の立場	目撃者		
分類	事故	環境	庭の池
状況	晴れの日の午後。幼児の体験場所として家の竹林を提供。竹の子狩りで５家族参加、収穫後調理・食事、その後庭で遊んでいて、浮草に覆われていた浅い池（水深 20cm）に滑り落ち、手首に切り傷を負った。		
対応	傷を水道水で洗い、同伴の父親に承諾をもらいオキシドール（破傷風対策）で消毒、絆創膏を貼った。念のため、医者に診せるように提案。後日、無事との連絡あり。		
原因	注意不足		
再発防止	安全そうな状況でも発生しうる。油断大敵と思う。 自己責任を周知　緊張感が大切だと。		
その他	救急セット（自分用）を持参している。		

事例 No.	38	タイトル	山道で参加者が転倒
報告者の立場	参加者		
分類	事故	環境	山道
状況	曇りの日の午前中。ツアー参加者が坂道でつまずき転んでしまった。		
対応			
原因			
再発防止	危ない所に立ち入る時は前もって注意を促す。		
その他（日頃の（日頃の備えなど			

事例 No.	39	タイトル	谷の橋の上で危険な行動
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	山道の橋の上（手すりなし）
状況	晴れの日の午前中。10 代の子どもが谷の上の橋の上で、ふざけて、他参加者の肩を「わっ」と言って揺すった。二人が落ちたかと心配した。子供たちのふざけで、大事には至らなかった。		
対応	その場でしっかり注意し、落ちたらどうなるか考えてもらった。		
原因	子供のおふざけを止めれなかった。 学生なので注意が難しい		
再発防止	事前に危険性を強く伝える。		
その他（日頃の備えなど	落石の除去、道の水分の様子のチェック		

事例 No.	40	タイトル	山道でのおしゃべりに夢中。足をくじく。
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	山道
状況	晴れの日の午前中。友達同士で話に夢中になり、足をくじいてしまった。幸い軽い怪我でお客様が「だいじょうぶです」と言って普通に歩き出した。しかしサンダル履きであったので、足をくじいたのでは！と思いました。		
対応	常備していたナパゲロン・ローションを塗ってあげた		
原因	友達同士で話に夢中になり、足元の注意がおそろかになった。 もう少し、服装・履物の注意を事前にするべきであった。		
再発防止	服装・履物の注意を事前に行う。		
その他（日頃の備えなど	大雨暴風のあとには、コースの点検をしている。 お客様に少しでも多く、満足し楽しんでもらえるよう心がけている。		

事例 No.	41	タイトル	道路沿いのジオサイトは車に注意
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	道路沿いのジオサイト
状況	曇りの日の午前中。道路沿いのジオサイトを見学する際に、見学スペースが狭いことから道路にはみ出て見学、車が来る度にガイドや同行職員が見学者に対して注意喚起をしないと危険な状況となっている。		
対応			
原因	ジオサイトの整備が不十分		
再発防止	ツアー前、ツアー中のこまめな注意喚起等が必要。		
その他（日頃の備えなど			

事例 No.	42	タイトル	周囲の観察時には足元にも注意
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	山道（側溝の一部にしか蓋がなかった）
状況	雨の日の午前中。狭い山道で３０人位の人数で時折説明しながら、周囲を観察していた時、足元に注意がいかなかった。側溝が深かったのとセメントだったので足をややひどく擦りむいてしまった。		
対応	すぐに消毒し、絆創膏の処置を行った。		
原因	説明不足。 側溝の説明（足元をよく見て歩く事・蓋が少ししかないこと）。高校生向けだったので事前に長い体操ズボンなど参加する時の服装について説明しておけば良かった。 場所のスペースの割に参加者人数が多かったように思う。		
再発防止	これからどんな事があるか分からないので、日頃から応急処置の仕方、対処法をしっかり身につけておく事が大切だと思う。 今は消毒液やカットバンを使わないで対応がされているので、今後は水などをペットボトルに入れて持って行く方が良いのかなと思っている。また翌日大丈夫だったかの確認を怠ったのはとても反省している		
その他（日頃の備え、事前の準備など）	必ず現場の確認をし、通路の岩や石、蜂、虫などいないかをチェックしている。虫よけや傷薬などの準備も行っている。 今まで大きな事故もなく、ガイドをやってこれたが、これからどんな事があるか分からないので、日頃から応急処置の仕方、対処法をしっかり身につけておく事が大切だと思う。		

事例 No.	43	タイトル	木製の小さな橋から降りた際に骨折
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	整備された木製の小さな橋
状況	天気の良い日であったが、整備された木製の小さな橋から降りる際に足をひねり骨折した。		
対応	怪我の状態を確認し、負傷者を背負ってツアー随行。車まで運び、病院へ搬送した。その後家族へ連絡、保険会社とのやりとりなどを行った。		
原因	橋から降りた地面が、ぬかるんだ坂道で足元が悪かった。		
再発防止	ツアー前、ツアー中のこまめな注意喚起が必要。 ２回以上の下見、ツアー前のストレッチ、ツアー募集時に歩きやすい服装、長袖、長ズボン着用を注意喚起している。		
その他（日頃の備えなど	下見等でしっかり危険箇所の確認や、想定されるヒヤリハットなどを参加するガイドや同行者で共有する必要があると思います。		

事例 No.	44	タイトル	参加者の自己判断で未整備路を下り転倒
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	林道の下り坂
状況	雨が降っている状態で、整備された山の坂道（土）を下っている際に、自己判断で整備されていないところを下り始め、足を滑らせ転倒した。		
対応			
原因	参加者の自己判断による勝手な行動		
再発防止	ツアー前、ツアー中のこまめな注意喚起等が必要。		
その他（日頃の備えなど			

事例 No.	45	タイトル	歩きながらの行動で転倒
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	一般道路
状況	晴れの日の午前中宇。歩きながら右手を見るよう声をかけたところ、道路の側溝の溝に足を引っ掛けて転倒		
対応	声をかけ、怪我の有無を確認、大丈夫だったのでツアーを継続		
原因	歩きながらの解説により、足元への意識が薄れた。		
再発防止	見せたいものがある場合には、止まって解説をする		
その他（日頃の備えなど	下見の実施		

事例 No.	46	タイトル	道路の路肩の段差につまづく
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	道路の路肩
状況	曇りの日の午前中。道路路肩のアスファルト段差につまずいた。		
対応	ガイドがつまずいた方の手足を確認したが、特に外傷は見受られず、終了後再度様子を伺ったが特に問題は見受られなかった。		
原因	道路路肩のアスファルトの段差		
再発防止	小さい段差とはいえ、意識が他の場所にあると事故につながる場合がある。移動中も何か気になる物があれば立ち止まる事も必要。 ガイド箇所の下見、移動ルートの確認。		
その他（日頃の備えなど	日頃から通っている道ではあるが、下見の段階で当たり前に通過するのではなく、初めてそこを通る目線で小さな危険も発見していければと思う。		

事例 No.	47	タイトル	野外体験中に体調不良（熱中症疑い）に
報告者の立場	運営とツアーサポート		
分類	事故	環境	整備されたキャンプ場
状況	晴れの日の日中。野外体験中、体調不良を訴えた参加者（小学生）が発生、サポートスタッフに救急隊員がいたため、状態を確認してもらい、熱中症の疑い有りとのことで安静にしてもらう。状態の改善が見られなかったのでツアー中に車で搬送した。晴れ　気温 30 度前後		
対応	サポートスタッフの救急隊員に状態を確認してもらい、熱中症の疑いがあるとのことで、日蔭で安静にしてもらったが、状態の改善が見られないため別車で自宅まで搬送した。事故後、そして翌日に家族に状態の確認をした（回復した）。		
原因	水分摂取の呼びかけをしていたが、当事者は水分をあまり補給していなかった。		
再発防止	水分摂取の時間を取るだけではなく、参加者がしっかり水分を摂っているかを確認（特に児童には注意が必要）		
その他（日頃の備えなど	下見の実施、救急時用の車とスタッフの配置		

事例 No.	48	タイトル	高校生がスズメバチに刺される
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	山道
状況	晴れの日の午前中。高校生約４０名を山登りに案内中、スズメバチに５～６名が刺された。		
対応	別ルートですぐ下山し、手分けして刺された生徒を病院に車で搬送した。グーグルにも載っていない山道で車がすぐに来られず、1 時間くらい現場で待った。		
原因	下見の際に蜂の巣に気づかなかった。一人での下見だったが、複数ですべきだった。大声や虫よけスプレーも蜂を刺激したと考える。		
再発防止	下見の際巣の確認は念入りにする。下見を複数人で行う。		
その他（日頃の備えなど	下見の実施。自分を過信せず、複数で準備したい。		

事例 No.	49	タイトル	ガイド後のフリータイム時に転倒
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	寺の境内。坂道。
状況	晴れの日の午後。境内の遊歩道の坂道を下っているときに、足を滑らせてしまい尻もちをついた。後日連絡を受け尻もちをついた際に、骨にヒビが入っていたと連絡を受けた。ケガをした当事者は何ともないと思っていたが、痛みが治まらないので、病院にいって発覚したということ。		
対応	ガイド後のフリータイムの時に事故を起こしたということで、その時は誰も認知していない。		
原因	舗装されていない場所で滑る可能性があった。		
再発防止	滑りやすいので足元に注意するように伝えている。 下見をして不安な場所がないか確認をしている。		
その他（日頃の備えなど	年齢を問わず、安全で何ともないと思われている場所でも事故は起きる。どこが安全とは言い切れないので、とにかく注意をしてもらうしかない。ツアー時には保険を掛けているので、保険対応をしてお客様に負担のないように誠意を尽くすことが大事。		

事例 No.	50	タイトル	登山中に熱中症の疑い
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	登山道中のコンクリート階段
状況	晴れの日の午後。登山中に４０分ほど登った地点で、参加者の１人が疲れた様子で発汗多くしばらくして道端に寝込む。目を閉じて辛そうで吐き気あり。熱中症の症状に似ていた。		
対応	体の具合など確認（血圧が高いこと判明）。他のお客様は他のガイドにお願いしてしばらく様子をみた。119 番通報が必要かと考えたが５分ほどで回復した。		
原因	参加者はタクシーの運転手さんで普段から運動不足が考えられる。肥満体型。周りの人のことを考え頑張りすぎた。		
再発防止	体力にあったペース、お客様の疲労具合をよく観察する。 お客様の体調を絶えず気遣う。		
その他	下見を必ず行っている。救急セット、洗浄用水の携行。予備の飲み水塩飴などの携行。安全管理マニュアルの整備と研修の実施が必要		

事例 No.	51	タイトル	下山後の疲れで転倒
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	舗装された駐車場と歩道
状況	晴れの日の午後。登山から無事戻り、駐車場の車のそばで荷物を手に持ちながら歩いていた参加者が、歩道の縁石につまずいて転び背中を打つ。		
対応	ケガのないことを確認。注意を喚起できなかったことを謝罪。		
原因	山に登って少し足が疲れていたと思われる。 気のゆるみによる不注意。下山して安心し安全への気配りが足りなかった。		
再発防止	お見送りするまで安全に対する気配りを怠らない。		
その他（日頃の備えなど			

事例 No.	52	タイトル	熱中症で病院搬送
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	山頂・草原
状況	晴れの日の午前。日陰なく、晴天で気温高い。ツアー参加者の 1 名が明らかに熱中症の症状で動けない状況。意識はあり。前日少し体調が悪かったとのこと。		
対応	日傘で日陰をつくった。瞬間冷却剤で脇の下や首を冷却。声をかけながら状況確認（両親）。119 番通報救援依頼。ヘリで病院へ搬送、点滴などで体調回復の連絡をいただいた。		
原因	参加者の体調の変化への気配りが不十分だった。 当日途中下山したお客様もいた。		
再発防止	お客様が動けなくなる前に体調の不良に気付くことが大切。		
その他（日頃の備えなど	真夏は熱中症対策キットを携行		

事例 No.	53	タイトル	登山道の階段で転倒
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	登山道・コンクリート階段
状況	晴れの日の午前中。山頂から階段の登山道を降りる途中で転び、足のすねに 20cm ほど擦りむく怪我をした。体力に自信のない生徒さんで、引率の先生が付き添っていたので大きな怪我にならなかった。		
対応	付き添いの先生が応急処置をし、しばらく休んで下山した。 前もって引率の先生が付き添っていただいたのが良かった。事前に生徒の体力の情報がなかったら対応が難しかったと考える。		
原因	山に登って足が疲れていたので足がもつれたと考えられる。 階段の踏み石がやや右に傾いていた。		
再発防止			
その他			

事例 No.	54	タイトル	様々なヒヤリハット
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	屋外
状況	動物に危害を加えられる 海や川に落ちそうになる 場所に見合った服装や装備でない		
対応			
原因	案内する側の具体的な例示のスキル不足と参加する側の認識の甘さが大きい、未経験の事象に対する想像力や当事者意識の度合いが低いと”伝える”“伝わる”に差異が生じやすい。 団体行動により誰かが安全を確保している。又は安全だと思い過ぎてしまっている心理状態		
再発防止			
その他（日頃の備えなど	下見や天候のチェックの実施。 天候や状況次第では見学などができないという事も事前に伝えている。 事前の打ち合わせ時に禁止事項や危険性を伝えている。		

事例 No.	55	タイトル	馬に後ろから近付いた
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	屋外
状況	馬の説明をした際に、馬の後方から近づかない様注意していたにも関わらず、後方から近づいた参加者を注意した。幸い事故にはならなかった。		
対応	大声で危険を呼びかけすぐに参加者を遠ざけた。		
原因	参加者の不注意		
再発防止			
その他（日頃の備えなど			

事例 No.	56	タイトル	海岸での注意喚起
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	海岸
状況	晴れの日の午後。海岸のジオサイトで、波打ち際で説明ガイドしている時、波がお客様の近くまで押し寄せて来たので、もう少し波打ち際より離れた場所で説明した。		
対応	参加者を波打ち際から遠ざけ安全な場所でガイドを行った。		
原因			
再発防止			
その他（日頃の備えなど			

事例 No.	57	タイトル	船上での危険行為
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	観光船上
状況	曇りの日の午前中。観光船が波で少し揺れていた時、客の一人が船内をつたい歩きしていた。少し高齢者		
対応	気が付いたらつたい歩きをしていたため、予防することが出来なかった。		
原因	最初に船内の移動をしないよう話しすべきだった。		
再発防止	事前に船内の移動を禁止する旨を伝える		
その他（日頃の備えなど	天候の事前確認		

事例 No.	58	タイトル	船上での体調不良
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	船上
状況	観光船の中で、参加者の１名（５０歳代の女性）が体調不良となる。		
対応	空調設備のある客室フロアーで横になっていただき、本人や同乗した家族による状態確認を行うとともに船上より救急担当（１１９番）に電話連絡、帰港接岸と同時に救急担当が乗船、医療機関に搬送した。		
原因	原因は二日酔いとのこと。		
再発防止	全ては参加者の安全確保が最優先である。特に天候等に大きく左右される海が実施場所の為、船舶航行責任者の可否判断の遵守、関係機関との緊急時連絡体制の確立及び参加者への事前確認事項の徹底が不可欠である。		
その他（日頃の備えなど	１．船上での注意事項（身を乗り出す危険性、帽子等への注意、立ち入り禁止場所の遵守。） ２．子どもへの注意（保護者） ３．船酔い等体調不良発生時の早期申し出。 ４．船員の指示事項の遵守		

事例 No.	59	タイトル	岩石探し中に蜂に刺される
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	海岸の草むら
状況	晴れの日の午前中。ガイドが特定の岩石について説明をし、その岩石を探すように勧めた。被害者はどれが説明のあった岩石か一生懸命探していたところ、近くの草むら付近の土の中から急に出てきた黄色い蜂に足首を刺された。		
対応	氷（保冷剤）を患部に当て、熱冷ましをした。その後、ガイドが携帯していた救急薬品から傷絆を取り出し処方した。家族の人に被害者のアナフィラキシーが無い事を確認。家族に病院または蜂の薬の購入かを尋ね、薬品を希望したので、近くの薬局に案内し、薬を購入してもらった。その後事態は快方に向かったため、ガイドを継続した。		
原因	被害者の服装が軽装であったこと。ガイドが草の丈が結構伸びていて地上の状況を把握することが困難であり、蜂が出てくるかも知れない危険を察知することができなかったこと等が考えられる。		
再発防止	ガイドにあたって下見を行っているが、もっと念入りに細かいところまで気を遣って周囲の環境を精査したい。 下見、情報収集、装備の点検		
その他（日頃の備えなど	大事に至らず、大変良かったと思います。ガイドをしたのが今回、家族だったわけですが、一般の大人の団体などであれば事態はもっと深刻になっていたかも知れないと思います。今後もお客様をまず第一に考えて行動したいと思います。		

事例 No.	60	タイトル	岩場歩きで転倒
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	岩場
状況	曇りの日の午後。舗装道路から岩場に入って５m 地点で小さな凸部につまずき、転倒した。向こうずねを 20cm×5cm 擦過傷。		
対応	傷の状況を確認。傷は浅いが出血があった。傷口は汚れていなかったので軽く拭き、幅６cm のフリーカットフィルムを傷の長さに切り、貼りつけた。事前に注意喚起していたことから、自分の不注意でガイドを中断したことを詫び、ガイドを続行した。救急用品は携行していた。		
原因	雨で岩場が濡れていた。 岩場歩きに不慣れな方だった。		
再発防止	口頭で注意喚起しても、体得・体感出来ないこともある。より具体的な実演を含めた注意喚起も必要。		
その他（日頃の備えなど	下見をして、お客の状況を加味して確認している。岩場の転倒は大きな事故につながるので、十分な注意喚起と救急用品を携行。		

事例 No.	61	タイトル	ガイドの高齢化
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	雨の降る海岸
状況	10 月の雨風強い午後。雨の当たる方の場所にお客様を立たせ、ガイドは雨の当たらないところから、いかにも地学的であるが、誰が聞いても解らない、その場所には全く必要のない、意味不明な地球内部の説明（例えば、地殻が 1000km ある等）を、延々15 分続けた。そのガイドは同日、同じ団体に２回同じことを言った。 そのガイドは８１歳と高齢で、時々意味不明な言動をすることがあったと、後で知った。		
対応	お客様は、黙ってじっと耐えていた。私はそこまで長くなるとは思っていなかったが、１０分を過ぎた時から次の場所に行こうと促した。		
原因	ガイドの高齢化		
再発防止	変だと気が付いた早い段階で、交代できる体制を整える。		
その他（日頃の備えなど	ガイドが高齢化してきた時、認知症、循環器系疾患、転落など内部のリスクが高まってきています。		

事例 No.	62	タイトル	案内場所にアブが大量発生
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	事故	環境	屋外・バス車中など
状況	【事前】事前に草刈りのとき、下見に行った時、アブが多くいた。 【準備】前もって、ガイドが１本殺虫スプレーを持つよう準備をした。もし刺されたら、対応できるよう薬・ペットボトルに水を準備した。リーダーから長袖・長ズボン、虫除けスプレーの持参をお願いした。 【当日】。晴れの日の午前中。案内場所にアブが沢山飛んでいた。場所を移動しても、観光バスの周りにもアブが集まってきた。ガイド中に１名の子供が虫に刺された。		
対応	１人アブ？虫に刺された子供がいたが、引率の保健の先生が対応した。＊半ズボンの子供であった。ガイドが自然に振舞っていたので、子供達も騒ぐことなく、案内を継続した。バスに寄ってきたアブはガイド１人が早めに行き、入り口でスプレーをした。バスの中に入ってきたアブは子供達の顔にスプレーが当たらないように気をつけ、窓から外に出した。ガイド５人自然に振舞って対応した。		
原因	アブが多い場所・時期 もっと強く、学校や民泊の企画担当者に服装・持ち物、案内先の現状を言っておけば良かった。		
再発防止	学校や民泊の企画担当者に服装・持ち物、案内先の現状を伝える。		
その他（日頃の備えなど	下見、傷バン等の簡単な救急セット、てぬぐい、ディスポの手袋、水 何度かリスクマネジメントの研修を受けていたためか、落ち着いて対応できた。		

事例 No.	63	タイトル	緊張による体調不良
報告者の立場	ガイドもしくはツアーサポート（運営側を含む）		
分類	ヒヤリハット	環境	不明
状況	8 月の夏休み。気温高い。１泊２日のプログラム。男子生徒（中２）は個人参加。2 日目気温が高く、体調不良。当該生徒の行動を事前に責任者サポート（健康管理）に伝えてあったため、大事にならずサポート車（ワゴン車）にて併走。		
対応	寝不足・朝食を少量しかとっていなかった。サポートスタッフが体力が持たないと思い責任者に連絡し注意して見るよう促す。責任者は水分やサポート車を用意し事なきを得る。		
原因	空腹（朝食少量）。寝不足　一人参加による緊張		
再発防止	さすがにサポート体制が整っていた。責任者側は数々のリスクマネジメントをしていたのが、現場のスタッフが参加者と向き合えるかが鍵だと思う。 参加者の体調確認		
その他（日頃の備えなど	ガイドやサポートスタッフがリスクマネジメントを知っているかどうか。きちんとした講習を受ける事が望ましい。		

事例 No.	64	タイトル	坂の途中で参加者を待たせたガイド
報告者の立場	ツアー参加者		
分類	ヒヤリハット？	環境	下り坂
状況	晴れの日の午前中。下り坂の下の平坦地でガイドが新聞社の取材に応じはじめ、参加者が降りる事ができず斜面で待った。		
対応	自分がガイドに参加者を平坦地で待たせるよう言った		
原因	ガイドの経験不足		
再発防止	足場が不安定な場所では説明をしない		
その他（日頃の備えなど	ガイドはリスクマネジメントの講習を受けるべきだと考えます。		

ご協力いただいたアンケート内容

ジオツアーにおける事故・ヒヤリハット事例アンケート

作成　ガイドWG・とかち鹿追GP

このアンケートは全国のジオパーク関係者を対象に、これまで催行されたジオツアー（類似のものも含む）中に発生・遭遇した事故やヒヤリとした事例を聞き取り、情報の共有と今後の事故防止に繋げるためのヒヤリハット事例集を作成することが目的です。本目的以外の使用は致しません（例えば、どこのジオパークでは何件事故が起きている等）。また、ヒヤリハット事例集にジオパーク名及びアンケート回答者名は記載しません。お忙しい中と存じますが、お一人何件でも構いません。皆様のご協力をお願い致します。

記入されたアンケートは、とかち鹿追ジオパークまでFAX・メール・郵送のいずれかで送付願います。**（締め切り９月１６日）**

送付先　とかち鹿追ジオパーク推進協議会　事務局
電話（0156）67-2089　FAX（0156）67-2099
メール　geopark@town.shikaoi.lg.jp

*必須

〇ジオパーク名* _____

〇あなたのお名前 _____

〇あなたは、ジオツアー（室内の案内を含む）催行中に事故やヒヤリハットを経験したことがありますか？ *1 つだけマークしてください。**

□ありません
□ガイドやツアーサポート等の運営側として経験がある
□第３者的な立場（ツアー参加者や目撃者）として経験がある
□参加者として自分で事故をおこした又は誰かをヒヤリとさせた経験がある

前問で、ありませんと答えた方、アンケートのご協力ありがとうございました。
事故及びヒヤリハットを経験された方は、お手数ですが次の問いへお進みください。

１．事故・ヒヤリハット現場の環境

1-1.　事故やヒヤリハットの発生した場所（屋内・屋外・公園・一般道路・山道・海岸等とそれらの整備状況）について教えてください。

1-2.　経験された事故･ヒヤリハットに関して､発生した時刻や天候を教えてください。

	晴れ	曇り	雨	強風	雷
早朝（～７時）	□	□	□	□	□
午前（８時～１２時）	□	□	□	□	□
午後（１２時～１８時）	□	□	□	□	□
夜間（１８時～）	□	□	□	□	□

1-3.　他に、場所や天候等の環境について、事故やヒヤリハットと関係のありそうなものがありましたら教えてください。

２．　事故やヒヤリハットの状況

2-1.　ガイド（同行の職員等も含む）何名で何名のお客様を案内していたか教えてください。

	お客様1～5名	お客様6～10名	お客様11～20名	お客様人数21～30名	お客様人数31名以上
ガイド１名	□	□	□	□	□
ガイド２名	□	□	□	□	□
ガイド３名	□	□	□	□	□
４名以上	□	□	□	□	□

2-2.　事故にあった・あいそうになった方の人数と年齢を教えてください。当てはまるものをすべて選択してください。

	10歳未満	10～20歳	21歳～30歳	31歳～50歳	51歳～70歳	71歳～80歳	81歳以上
事故被害者（未遂も含む）1名	□	□	□	□	□	□	□
2～3名	□	□	□	□	□	□	□
4～10名	□	□	□	□	□	□	□
10名以上	□	□	□	□	□	□	□

2-3.　どんな事故やヒヤリハットであったか、状況をできるだけ詳しく教えてください。

2-4.　案内する側、される側の双方について、事故と関連がある又はありそうな身体的特徴（障害等）や状態（空腹・寝不足等）がありましたら教えてください。

3.　事故やヒヤリハットへの対応

3-1.　あなたやガイド、又は周囲の方が事故場面でとった対応についてできるだけ詳しく教えてください。

4.　今後の事故防止に向けて

4-1. 事故やヒヤリとした場面が発生した原因について、あなたはどのようにお考えでしょうか。当てはまるものをすべて選択してください。

☐不安全状態（石段、架橋、木道など周囲環境が危険な状態であった）
☐不安全行動（危ない動作や軽装など、参加者の行動が引き金となった）
☐気象・自然現象（急な雨や突風、地震などが原因であった）
☐過密な行程
☐その他:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

4-2. 事故やヒヤリとした場面について、こうしておけば良かったと思うことがあれば教えてください。

4-3. 安全なツアーを行うために、事前にしている準備（下見や装備）があったら教えてください。

5. 全体を通じてご意見・ご感想がありましたらお願いします。

以上で終了です。ご協力ありがとうございました！